

# サンポット株式会社

■本社・工場 〒350-11 川越市大字今福2833番地 (営業推進室 ☎0492-45-1213)

## ■営業第一部

札幌営業所	〒065 札幌市東区本町二条10丁目1番25号	☎011-785-1211
釧路営業所	〒085 釧路市光陽町8番1号	☎0154-22-5821
帯広営業所	〒080 帯広市東1条南25丁目12番地	☎0155-22-1335
旭川営業所	〒078 旭川市豊岡七条6丁目68番35号	☎0166-34-8636
北見出張所	〒090 北見市三輪493番地2	☎0157-36-6169
函館営業所	〒041 函館市本通4丁目17番25号	☎0138-53-2583
環境設備課	〒065 札幌市東区本町二条10丁目1番25号	☎011-785-1212
特機チーム	〒065 札幌市東区本町二条10丁目1番25号	☎011-785-1208

## ■営業第二部

仙台営業所	〒983 仙台市若林区卸町5丁目5番2号	☎022-236-3444
青森営業所	〒030-01 青森市問屋町2丁目18番18号	☎0177-38-4141
秋田営業所	〒010 秋田市山王7丁目5番2号	☎0188-24-3421
盛岡営業所	〒020 盛岡市本宮字林古25番地	☎0196-34-1215
首都圏営業所	〒352 新座市東北2丁目24番3号	☎048-471-8420
新潟営業所	〒950 新潟市紫竹山2丁目5番8号	☎025-241-0177
松本営業所	〒399 松本市村井道下958番1号	☎0263-58-6048
北関東営業所	〒321 宇都宮市峰2丁目5番9号	☎028-635-7755
特機チーム	〒352 新座市東北2丁目24番3号	☎048-471-8420

## ■営業第三部

大阪営業所	〒533 大阪市東淀川区菅原7丁目5番36号	☎06-326-0115
名古屋営業所	〒465 名古屋市名東区平和ヶ丘2丁目235番地	☎052-773-7881
広島営業所	〒733 広島市西区中広町2丁目1番2号 大田ビル	☎082-293-6955
特機チーム	〒533 大阪市東淀川区菅原7丁目5番36号	☎06-326-0115

## ■サンポットエンジニアリング株式会社 サービス部

〒065 札幌市東区本町二条10丁目1番25号 ☎011-785-1201

ご購入(据付)年月日	年	月	日
ご購入店名	TEL.		

お客様へ……おぼえのため、ご購入年月日、ご購入店名を記入されると便利です。

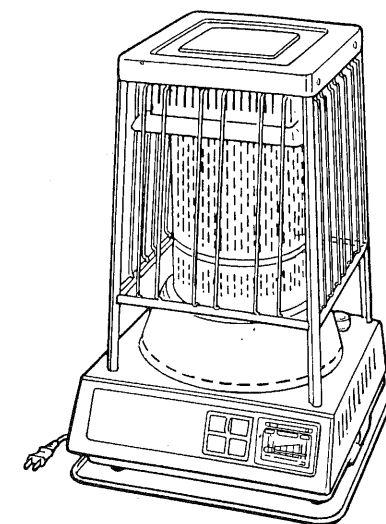
サンポット石油暖房機取扱説明書

# SUNPOT

サンポット石油暖房機  
(強制通気形開放式石油ストーブ)

## 取扱説明書

形名  
**KBR-173**



- このたびはサンポット石油暖房機をお買いあげいただきまして、まことにありがとうございました。
- お使いになる前に必ずこの取扱説明書をよく読んで、ストーブを正しくご使用ください。  
なお、この取扱説明書は、保証書と共に必ず保管してください。
- 換気の悪い部屋では、空気取入口を設け煙突セット(別売)、煙突(別売)を付けてご使用ください。
- 同梱のご愛用者カードは必ずご投函ください。

●商品には保証書を添付しております。  
保証書はよりよい製品作りやアフターサービスの向上に役立たせていただきますので、お手数ですが所定事項のご記入をご確認のうえ、必ず保証書控えをお買いあげの販売店にお渡しください。



ご使用前に

準備

使用方法

点検・その他

サンポット株式会社

# もくじ

使用前に	特に注意していただきたいこと	2~6
	使用する場所	7
	各部のなまえ	8
準備	使用前の準備	9~10
	●燃料	9
	●給油	10
	●点火前の準備と確認	10
使用方法	使用方法	11~14
	●点火	11
	●火力調節	11
	●炎の状態	12
	●消火	13
	●消火後再点火するときの注意	13
	●使用上の注意	14
	安全装置	15
	その他の装置	16
	点検・その他	日常の点検・手入れ
定期点検		18
故障・異常の見分け方と処置方法		19~20
部品交換のしかた		21
保管		21
仕様		22
アフターサービス	23	

# 特に注意していただきたいこと

## 安全のために必ずお守りください

この取扱説明書には本機を安全に正しくお使いいただくために、守っていただきたい事項が表示されています。

表示内容をよくご理解いただき、本文をお読みください。

●ここに示した事項は △ 危険、△ 警告、△ 注意 に区分しています。



### 危険

取り扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷を負う危険が切迫して生じることが想定される場合。



### 警告

取り扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される場合。



### 注意

取り扱いを誤った場合、使用者が傷害を負う危険が想定される場合および物的損害のみの発生が想定される場合。

●イラスト(まんが)の横にあるマークは次のように表しています。



マーク

禁止



マーク

強制



マーク

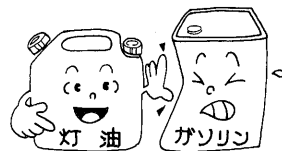
注意

# 特に注意していただきたいこと つづき

## ⚠ 危険

### ガソリン厳禁

- ガソリンなど揮発性の高い油は、絶対に使用しないでください。  
火災の原因になります。



## ⚠ 警告

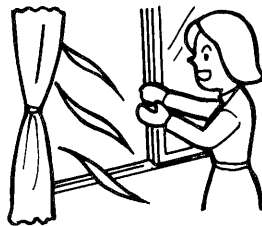
### スプレー缶厳禁

- スプレー缶を温風のあたるところやストーブの上や周囲に放置しないでください。  
熱でスプレー缶の圧力が上がり、爆発し、危険です。



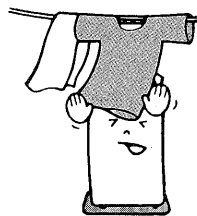
### 換気必要

- 換気せずに使用しつづけないでください。酸素が不足すると、不完全燃焼し、一酸化炭素などが発生して中毒になるおそれがあります。
- 使用中は必ず1時間に1~2回(1~2分)換気して、新鮮な空気を補給してください。
- 換気が十分に行なえない場所では、使用しないでください。



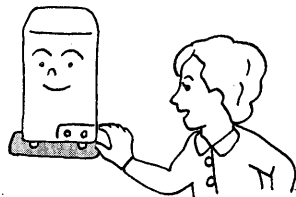
### 温風吹出口をふさがないで

- 衣類、紙などで温風吹出口や空気取入口をふさがないでください。  
衣類、紙などでふさぐと、異常燃焼や火災の原因になります。



### 寝るとき消火

- 寝るときや外出するときは、必ず消火してください。  
予想しない事故が発生するおそれがあります。

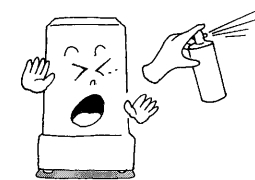
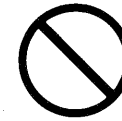


# 安全のために必ずお守りください

## ⚠ 警告

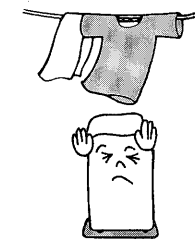
### 可燃性ガス使用厳禁

- ストーブを使用している部屋で、可燃性ガスが発生するもの(ベンジン、シンナー)、スプレーを使用しないでください。  
火災や故障の原因になります。



### 衣類の乾燥厳禁

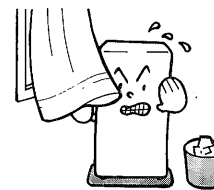
- 衣類などの乾燥には使用しないでください。  
衣類が落下して火がつき、火災の原因になります。



## ⚠ 注意

### カーテン、可燃物近接禁止

- カーテンや燃えやすいもののそばなどでは使用しないでください。  
火災が発生するおそれがあります。



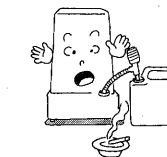
### 給油時消火

- 給油は、必ず消火してから行ってください。  
火災のおそれがあります。



### 居室内給油禁止

- 給油は、必ず火の気のないところで行ってください。  
火災のおそれがあります。



### 異常時使用禁止

- におい、すすの発生、炎の色など異常を感じたときは使用しないでください。  
異常燃焼のおそれがあります。

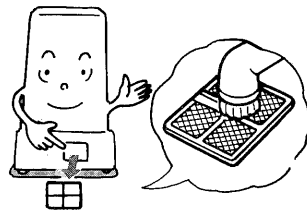


# 特に注意していただきたいこと つづき

## ⚠ 注意

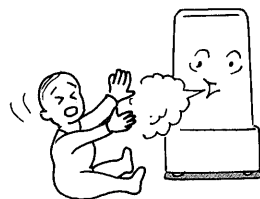
### ほこりの除去

- 給気フィルタは週1回以上必ず掃除してください。  
ごみ、ほこりなどフィルタがつまると、異常燃焼のおそれがあります。



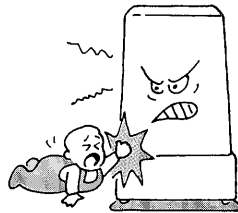
### 温風に注意

- 温風を長時間、直接身体にあてないでください。脱水症状になったり、低温やけどの原因になります。特に、体力のない病人、乳幼児、お年寄りには、まわりの人が注意してあげてください。



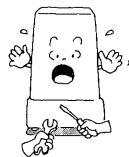
### 高温部に注意

- 燃焼中や消火直後は高温部に手などをふれないように注意してください。  
やけどのおそれがあります。特にお子さまをストーブに近づけないでください。



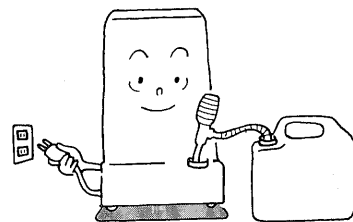
### 分解修理の禁止

- 故障、破損したら、使用しないでください。  
不完全な修理や改造は危険です。



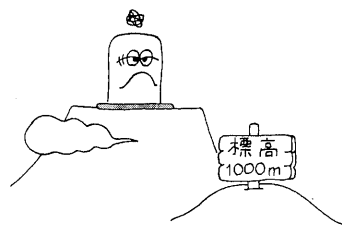
### 保管時の注意

- 長期間使用しないとき又は、保管するときは、電源プラグを抜き、必ず灯油を抜いてください。
- 傾けたり、横倒しの状態では保管しないでください。  
油漏れや火災のおそれがあります。



### 高地注意

- 標高1000m以下でご使用ください。それをこえて使用する場合は、お買い求めの販売店にご相談ください。標高1500m以上での使用はできません。そのまま使用しますと、空気不足により不完全燃焼の原因になります。

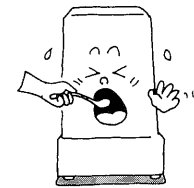


# 安全のために必ずお守りください

## ⚠ 注意

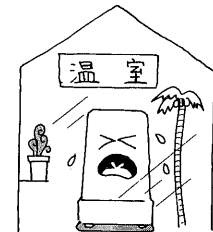
### 異物を入れないで

- ストーブの内部やガード内には紙、布、プラスチック、スプーンなどの異物を入れないでください。  
火災や感電の原因になります。



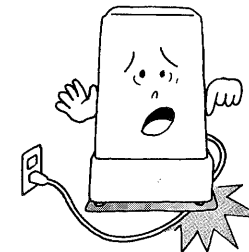
### 特殊な場所での使用禁止

- ストーブは、乾燥室、温室、飼育室などでは絶対に使用しないでください。  
また、クリーニング店、美容院など化学薬品を使用する場所では使用しないでください。  
化学薬品などの影響により不完全燃焼や故障の原因になります。



### 電源コードを傷つけないで

- 電源コードをストーブの下敷きにしたり、上に重いものをのせないでください。
- 熱を受けないようにしてください。  
電源コードが傷んだまま使用しますと、感電、火災、故障の原因になります。



### 物のせ禁止

- ストーブの上に物をのせたり、腰かけないでください。  
やけどしたり、ストーブの変形の原因となり、危険です。



### やかんのせ禁止

- やかん、なべなどをのせないでください。  
振動や接触によって水がこぼれ、ストーブが故障する原因になります。



### 燃焼中移動禁止

- 火のついたまま持ち運ばないでください。  
やけどのおそれがあります。また、転倒すると火災の原因になります。

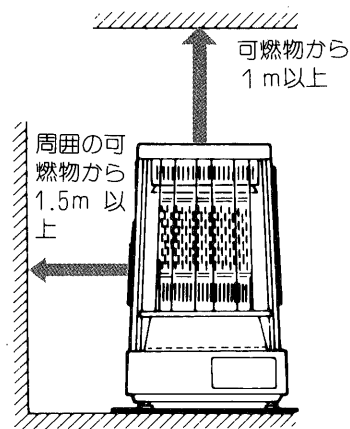


# 使用する場所

## ■安全に使用するために

可燃物とは図に示す寸法以上に離して、次の点にご注意のうえご使用ください。

- ストーブを据付ける床は水平で丈夫な場所を選んでください。
- 風のあたるところでは使用しないでください。
- 部屋の出入口など人の通るところでは使用しないでください。
- カーテン、障子など、燃えやすいものが近くにないよう注意してください。
- マントルピースでの使用はできません。
- ほこりの多い場所や、温度の高い場所では使用しないでください。
- 棚のあるところなど、落下物のおそれのある場所はさけてください。
- 可燃性ガスの発生しない場所、またはたまらない場所で使用してください。また、可燃性ガスが発生するものを使用しないでください。
- 標高1000m以下でご使用ください。それをこえて使用する場合は、お買い求めの販売店にご相談ください。そのまま使用しますと空気不足により不完全燃焼の原因になります。標高1500m以上での使用はできません。
- 工場等で強力なノイズの発生する機械のある所では、ノイズにより器具が消火したり、故障の原因となりますので使用しないでください。
- 換気が十分に行えない場所では、使用しないでください。
- 直射日光の当たる場所では使用しないでください。



## ■効果的に使用するために

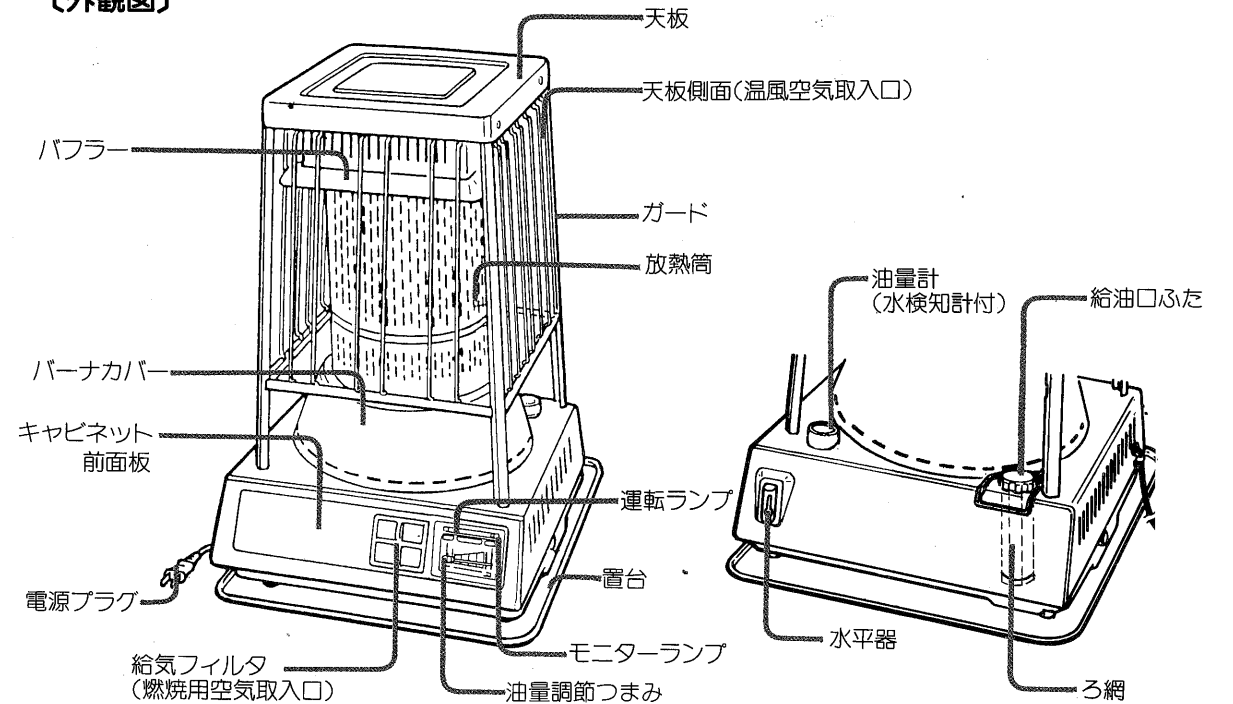
- 温風は4方向に吹き出しますので周囲に温風を阻止する障害物がないようにしてください。
- なるべく部屋の中央に置いてください。暖気の循環が行なわれて効果的です。

## ■排気筒の取付け

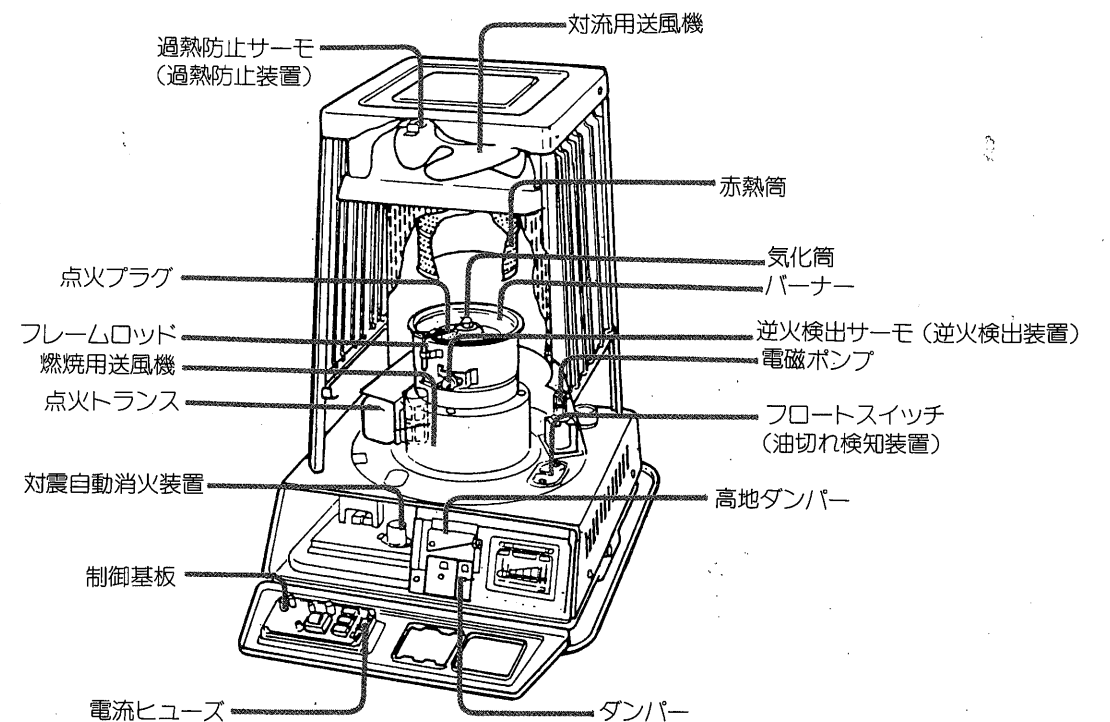
- 換気の悪い部屋では空気取入口を設け煙突接続セットBR-173E(別売)、煙突(別売)を付けてご使用ください。お客さまご自身による工事は危険です。据付工事は専門業者や販売店にご依頼ください。

# 各部のなまえ

## 〔外観図〕



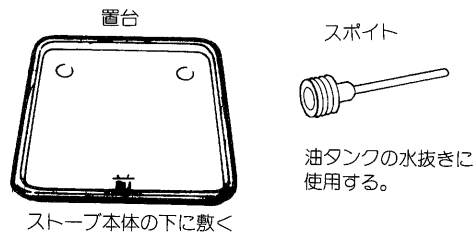
## 〔構造図〕



# 使用前の準備

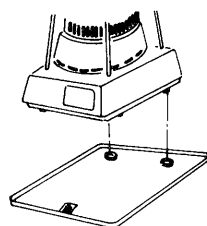
## 梱包材の除去と付属品の確認

開こんし、パッキン材やテープ等を取除いてください。  
 付属品として図のものが用意されていますので確認ください。  
 箱、包装部材は収納時に必要ですので、大切に保管してください。



## 置台の取付け

置台を必ず使用してください。  
 ストーブの前と置台「前」を合わせてストーブの脚を置台のキャップにはめ込んでください。



## 燃料

### 燃料

- 燃料は灯油（JIS 1号灯油）を必ず使用してください。
- 変質灯油、汚れた灯油、水の混じっている灯油などは、絶対に使用しないでください。  
 灯油は必ず火気、雨水、ごみ、高温及び直射日光を避けた場所に保管してください。

### 変質灯油・不純灯油は使用しない

- 変質灯油とは  
 古い灯油（ひと夏もち越した灯油）、長期間日あたりがよい場所に保管した灯油、長期間温度が高い場所に保管した灯油など。  
 特に容器のふたがあいてたり、白いポリ容器で保管した灯油は変質しやすい。
- 不純灯油とは  
 灯油以外の油（ガソリン、シンナー、天ぷら油、機械油、重油など）がほんの少しでも混入した灯油。  
 また、水やごみが混入した灯油。



### 変質灯油や不純灯油を使用すると

- 不良灯油（変質灯油・不純灯油）を使用しますと、油の程度にもよりますが、燃焼不良や異常着火、点火不良、気化筒のつまり等、故障の原因となりますので、絶対に使用しないでください。
- 水の混入した灯油を使用しますと、油タンクに油が残っていても火力が小さくなり火が消えてしまいます。
- ガソリン・シンナーなど揮発性の高いものを使うと火災の原因になります。

### 万一変質灯油や不純灯油を使ったときの処置のしかた

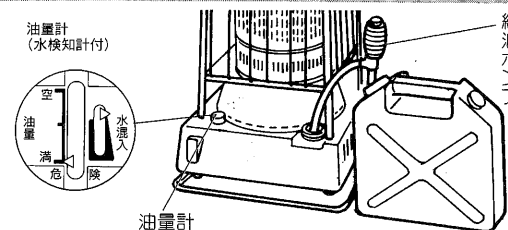
- 油タンク内の灯油を入れ替えてください。
- 悪い油や水をきれいに抜き取り、良質の灯油で内部を2~3回洗ってからご使用ください。
- 万一不良灯油を使って故障した場合、点検、修理は有料となります。

## 給油

給油はストーブを消火してから行ってください。

### 1 給油口ふたを外し、給油する

- 油量計の針が「満」の位置にきたら給油をやめる。



### 2 給油口ふたを確実に閉める

### 3 こぼれた灯油をよくふきとる



- 給油するときは、ごみなどが入らないよう注意してください。燃焼不良の原因になります。
- 油量計の表示が「満」の印以上には絶対に入れないでください。
- ろ網は外さずに給油してください。

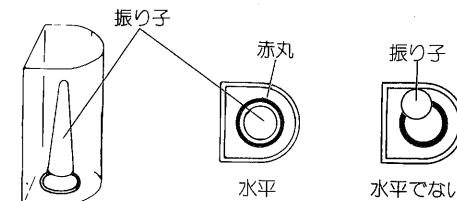
## 点火前の準備と確認

### 1 水平の確認

- ストーブ背面の水平器の振り子が赤丸内であれば水平です。水平でないときは、水平な場所に移動する。

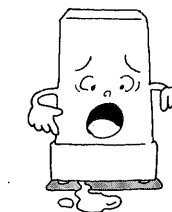


- ストーブは水平に設置してください。傾斜した場所では、対震自動消火装置が正しく作動しません。



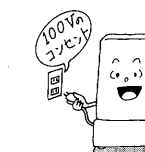
### 2 油漏れの確認

- 油タンクの周囲に油漏れがないか、置台は油たまりがないか、よく確認してください。  
 万一、油漏れしている場合は、油タンクから灯油を抜き必ずお買い求めの販売店または最寄りのサンボット営業所・出張所へご連絡ください。



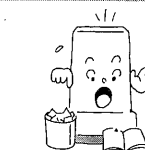
### 3 電源プラグの接続

- 電源プラグは100Vの専用コンセントに差し込んであるか、また使用中はずれることがないか確認してください。



### 4 ストーブ周辺の確認

- ストーブの周辺に引火物や可燃物を置かないでください。  
 火災や予想しない事故が発生するおそれがあります。

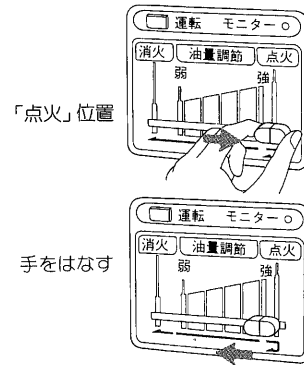


# 使用方法

## ■ 点火

1 油量調節つまみを「点火」位置まで動かして手をはなす。

- 油量調節つまみは自動的に「強」の位置にもどります。
- 運転ランプが点灯し、運転を開始します。
- 10数秒で点火し、約45秒後、温風が吹き出します。



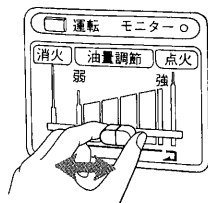
- 点火後4～5分は必ず「強」の位置で使用してください。
- 点火時に多少においですが、異常ではありません。
- 初めて使用したときにけむりやにおいが出ることがありますが、ストーブ内に塗装してある耐熱塗料が焼付くためではありません。
- 気温の低い場合や点火初期に青い炎に赤い炎が混入し、数分間バーナの温度が上昇するまで音を併せて燃焼することがありますが異常ではありません。



- 短時間運転（10分以下）の繰り返し使用はしないでください。バーナ内にカーボンがたまり、点火不良の原因となります。

## ■ 火力調節

1 点火後4～5分「強」の位置で使用したのち室温に応じて油量調節つまみで火力調節する。



- 油量調節つまみはゆっくりと動かしてください。油量調節つまみを急激に動かすと炎が吹き消えたり、赤火燃焼の原因となります。

## ■ 炎の状態

正しい炎 ○	赤火燃焼 ×	リフト燃焼 ×
<p>「強」燃焼</p> <p>先端にわずかに赤火がはいる</p> <p>全体に青火</p>	<p>赤火</p> <p>炎がのびる</p> <p>燃焼用空気量が不足</p>	<p>炎の一部が切れる</p> <p>油量が少ない</p>
<p>「弱」燃焼</p> <p>炎が穴から2～3mm離れる</p> <p>青火</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 多量に赤い炎がある状態をいいます。</li> <li>● 自動的に燃焼を停止することがあります。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 炎の一部が切れた状態をいいます。</li> <li>● においをする原因となります。</li> </ul>

- 点火直後は赤火が多く、7～8分たつと赤火は少なくなり正常な炎になります。
- 油量調節つまみを「弱」から「強」に動かすと1～2分の間、少し赤火が増すことがあります。

### ● 赤火燃焼の原因と処置

原因	処置
換気不足	換気をする。
給気フィルタのごみづまり	給気フィルタの掃除をする。
変質灯油・不純灯油を使用した	良質の灯油と入れかえる。

- 処置後も赤火燃焼するときは、お買い求めの販売店にご相談ください。

### ● リフト燃焼の原因と処置

原因	処置
油量が低下した	送油経路部にごみが付着したおそれがあるので、お買い求めの販売店にご相談ください。



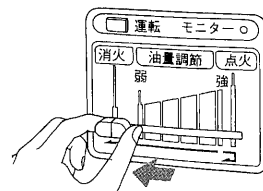
- ストーブ内部にごみが吸込まれると炎の色が全体的に赤又はピンク色になります。このようなときはストーブの周囲を掃除してください。
- 炎が赤火、又は炎の切れる状態の場合はストーブの調節が必要です。お買い求めの販売店に早急にご相談ください。

# 使用方法 つづき

## ■消火

1 油量調節つまみを「消火」位置まで動かして手をはなす。

- 数秒後、消火します。
- 対流用送風機はいったん回転が落ちたのち再び運転します。



2 消火を確認する。

- 約1分50秒後、運転ランプが消え、送風機が停止します。



- 消火時には、多少においが出ますが、異常ではありません。



- 電源プラグを抜いて消火することは、絶対しないでください。電装部が温度上昇して故障の原因となります。
- 電源プラグは送風機が停止してから抜いてください。
- 外出されるときは、必ず消火して、運転ランプが消えたことを確認してからお出かけください。
- 長期間留守にするときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

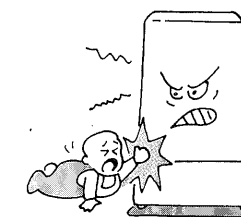
## ■消火後、再点火するときの注意

- 運転ランプが消え、送風機が停止してから再点火操作をしてください。それ以前には点火しません。
- 停電時は通電後、ストーブが冷えてから再点火操作してください。

## ■使用上の注意

### 高温部に注意

- 燃焼中や停止直後は、ストーブの天板、パフラー、ガード、放熱筒、バーナカバーなどの高温部に手などふれないように注意してください。やけどのおそれがあります。
- 特にお子さまをストーブに近づけないでください。保護ガード（関連部材）のご使用をおすすめします。



- ストーブ周囲は、ふく射熱が強いので熱に弱いものを置いたり、敷いたりしないでください。変形や変色したりすることがあります。

### 雷時の注意

- 雷が接近したときは、電源プラグをコンセントから抜いてください。激しい雷の影響でストーブが故障するおそれがあります。

### 揮発性シリコンを使用しないで

- 揮発性シリコン配合の枝毛用コート剤やヘアトリートメントなどはストーブの近くで使用しないでください。点火ミスや途中消火の原因になります。
- 屋内でヘアースプレーやフロンガス、トリクレンなどを使用している所、及び刺激臭の強いガス等の発生している所では、金属や本体が錆びたり点火ミスや途中消火の原因になりますので使用しないでください。

### 電源プラグは確実に差し込んで

- 電源プラグを持って確実に差しこんでください。
- 電源プラグにほこりが付いていたり、差し込みが不完全だと感電や火災の原因になります。

- 給気フィルタにごみがたまりますと赤火燃焼になり、モニターランプが点灯し、途中消火のおそれがあります。日常点検し、週に1回は掃除してください。

- バーナ部に強い風が当たると消火することがあります。風のあたるところでは使用しないでください。

- 使用中、異常なおいを感じたり、目がしみる場合は、使用を中止し、お買い求めの販売店に早急にご相談ください。

- 工場など強力なノイズの発生する機械のある所では、ノイズにより、ストーブが消火したり、故障の原因となりますので使用しないでください。

- ストーブの近くでラジオなどを使用しないでください。ラジオに雑音が入るおそれがあります。


- ストーブを移動するときは、タンク内の灯油を抜いてから移動させてください。



# 安全装置

●異常が生じたとき、自動的に消火する装置です。

●安全装置が作動した場合、油量調節つまみを「消火」の位置にし、ストーブが冷えてから下記の処置をしてください。

安全装置のなまえ ●作動の原因	処置の方法
<b>対震自動消火装置</b> ●地震（震度5程度以上）のとき ●強い振動や衝撃を受けたとき	ストーブの周囲やストーブの外れやゆるみ、油漏れなどの異常がないことを確認し再点火操作してください。
<b>不完全燃焼防止装置</b> ●換気不良、手入れ不良、その他の異常によりバーナ部への空気の供給が不足したとき  不完全燃焼防止が作動する前に、モニターランプが点灯して作動を予告します。モニターランプが点灯しましたら、はやめに換気してください。	給気フィルタの掃除をし、部屋の換気をし、ストーブが冷えてから再点火してください。 不完全燃焼防止装置は、あくまでも不完全燃焼を防止するためのものであり、使用中は必ず1時間に1~2回換気して新鮮な空気を補給してください。
<b>点火安全装置</b> ●点火不良のとき	再点火操作すると運転を開始します。運転開始後も異常がある場合はお買い求めの販売店にご相談ください。
<b>燃焼制御装置</b> ●途中で火が消えたとき ●炎が小さくなったとき	油タンクへ給油する。または、油タンク内のごみや水混入などの原因を取り除いてから、再点火操作してください。
<b>停電安全装置</b> ●停電したとき ●電源プラグが抜けたとき	通電後、ストーブが冷えてから再点火操作してください。
<b>過熱防止装置</b> ●対流用送風機が故障したり、対流用送風機の周囲にほこりがたまり高温になったとき	対流用送風機の周囲、天板側面の掃除や障害物などの原因を取り除き、ストーブが冷えてから再点火操作してください。 冷える前に再点火すると、油が出なかったり、火がついてもすぐ消えます。

●再び同様な現象がおきた場合には、お買い求めの販売店または最寄りのサンポットの営業所・出張所へご連絡ください。

# その他の装置

- 作動した場合、自動的に消火します。
- 油量調節つまみを「消火」にし、ストーブが冷えてから下記の処置をしてください。

その他の装置の名称 ●作動の原因	処置方法
<b>逆火検出装置</b> ●バーナ温度が異常に上昇したとき	ストーブが冷えるのを待って再点火操作をしてください。同じ状態をくり返すときは、お買い求めの販売店にご相談ください。
<b>油切れ検知装置</b> ●燃料がなくなったとき	運転ランプが消え送風機が停止してから給油してください。

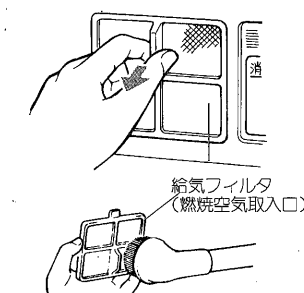
# 日常の点検・手入れ

## ■点検・手入れのときの注意

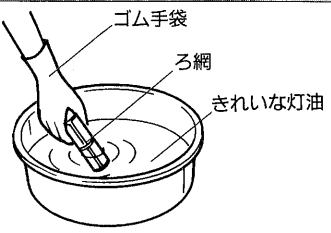
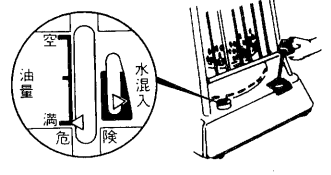
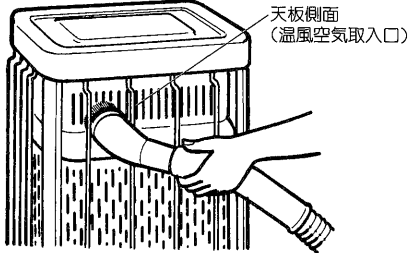
- 必ずストーブが停止した後に電源プラグをコンセントより抜いてから行ってください。

## ■点検・手入れの必要項目、時期、方法

時期	点検・手入れ項目	方法
使用ごと	油漏れ・油のたまり・油のにじみ	●ストーブや置台に油漏れ、油のたまり、油のにじみがないか点検します。
	周囲の可燃物・引火物	●ストーブの上や周囲に可燃物、引火物がないか点検します。
	ほこり	●ストーブ表面、置台および周囲のほこりを掃除する。
週に1回以上	給気フィルタ	●ストーブ前面の給気フィルタを図のように取り、給気フィルタに付いたほこりを掃除機などで取り除きます。 ●給気フィルタは掃除したあと必ず取り付けてください。



# 日常の点検・手入れ つづき

時期	点検・手入れ項目	方 法
給油ごと	油タンクのろ網	<ul style="list-style-type: none"> <li>●給油前にろ網の点検をします。汚れていたら灯油で洗ってください。</li> </ul> 
	油タンクの水抜き	<ul style="list-style-type: none"> <li>●油タンクに水が混入していないか点検します。</li> <li>●油タンクに多量の水がたまると、水検知計が水の混入を表示します。水が混入している場合、油タンクの給油口から附属のスポイト又は市販の給油ポンプで、本体を給油口側に少し傾斜させて、油タンクの底にたまった水を抜き取ってください。</li> </ul> 
1ヶ月に1回以上	対震自動消火装置	<ul style="list-style-type: none"> <li>●キャビネット前面板を持ち水平にゆすって対震自動消火装置が働き、確実に消火することを確認してください。確認するとき、高温部に手などふれないように注意してください。</li> </ul>
	天板側面	<ul style="list-style-type: none"> <li>●天板側面のほこりを掃除機で吸い取ってください。</li> </ul> 
1シーズン2~3回	油タンク	<ul style="list-style-type: none"> <li>●2ヶ月に1回は、給油前に油タンク内の灯油をすべて抜き取り点検してください。灯油にごみや水がまざっている場合は、きれいな灯油で油タンク内部をすすいだ後、きれいな灯油と入れかえてください。</li> </ul>
	電源プラグ	<ul style="list-style-type: none"> <li>●電源プラグにほこりが付着していないか点検します。</li> </ul>

# 定期点検

サンボット強制通気形開放式石油ストーブは使用される場所や条件、また使用時間により消耗・劣化する部品がありますので、専門技術者（(財)日本石油燃焼機器保守協会(TEL.03-3499-2928)で行う技術管理講習会修了者(石油機器技術管理士)または技術講習会修了者(点検整備士))による定期点検を受けてください。

## 定期点検の実施時期

2シーズン毎に1回程度定期点検を受けてください。

ただし、湿度の高いところ、ほこりの多いところ(例えば、厨房室や製綿工場など)、温泉地域などでご使用の場合は、1シーズン毎の点検が必要となりますのでお買い求めになった販売店にご相談ください。

### 定期点検

定期点検は専門の技術者が、設置状態、安全装置および運転動作の点検・確認、使用時間により消耗劣化しやすい部品の点検等を行います。

安全にお使いいただくために製品の状態を点検診断するものですから必ず受けてください。

### お申し込み先

お客様→お買い求めになった販売店。

### 定期点検費用

定期点検の費用についてはお買い求めの販売店にご相談ください。

定期点検の結果、部品交換および修理等が必要な場合は、処置内容および費用についてお客様にご相談申し上げます。

## 定期点検の内容

定期点検の内容	項 目
設置状態の点検・確認	●製品の設置・使用状態 ●送油経路部の油漏れ
安全装置および運転動作の点検・確認	●安全装置の働き ●運転動作の点検 ●操作部品や動く部品の働き
環境・使用時間により劣化しやすい部品の点検・交換	●点火プラグ・フレームロッドの点検 ●バーナ・赤熱筒・気化筒・放熱筒などの点検 ●各種パッキン、Oリングの点検 (劣化の状態により交換の場合もあります。)
製品の清掃・整備	●本体内 ●対流用送風機 ●燃焼用送風機 ●油タンク、ポンプ、ポンプフィルタ、ろ網

# 故障・異常の見分け方と処置方法

異常が生じた場合は下表を参照にして、お客さまご自身で処置してください。

現象	原因								処置	参照ページ	
	運転ランプが点灯しない	運転ランプがつき手をはなすと消える つまみを点火位置へ動かした時だけ	油が出ないで操作後45秒で停止する	油は出るが点火しないで停止する	使用中に消火する	赤い炎になる	炎が飛び一部切れた状態で燃える	においがする			水検知が水混入を差している
電源プラグがコンセントから抜けているまたは、使用中に抜けた	●				●					電源プラグをコンセントに確実に差し込む	10
ストーブが傾いている		●			●					水平な場所に移動する	10
油タンクに灯油がない			●		●					給油する	10
変質灯油、不純灯油を使った				●	●	●	●	●	●	油タンクを掃除し、きれいな灯油に入れかえる	9
給気フィルタがつまっている					●	●				掃除する	16
天板側面にほこりが付いている			●		●					掃除する	17
換気が不足している					●	●				換気を十分にする	15
地震や強い衝撃があった					●					器具周囲、油漏れを点検する	15
風のある所で使用している					●	●	●			風のある所での使用をさける	14
ほこりがたつ所で使用している						●				周囲を掃除する	12

以上の方法で点検し、処置してもなおらないときは、使用を中止し、お買い求めの販売店または最寄りのサンポット営業所・出張所へご相談ください。

修理をお申しつけのときには故障内容をできるだけ詳しくご連絡ください。

## モニターランプ点灯状態とその原因の目安

モニターランプ	原因の目安 (15~16ページを参照して処置してください。)
点灯しながら燃焼。	● 不完全燃焼防止装置の作動予告。
点灯と同時に消火した。	● 過熱防止装置が作動した。 ● 逆火検出装置が作動した。 ● 油切れ検知装置が作動した。
点灯しないで消火した。	● 対震自動消火装置が作動した。



再点火操作は繰返し3回以上行わないでください。燃料がバーナ内に出て危険です。繰返し安全装置が作動するときは、電源プラグを抜き、そのままにして直ちにお買い求めの販売店または最寄りのサンポット営業所・出張所へご連絡ください。

## 部品交換のしかた

- 経年により消耗、劣化しやすい部品があります。
- 異常かなと思われましたら、お買い求めの販売店または最寄りのサンボット営業所・出張所にお問い合わせください。個人での不完全な修理は危険です。
- 専門技術者((財)日本石油燃焼機器保守協会で行う技術管理講習会修了者(石油機器技術管理士)または技術講習会修了者(点検整備士))が修理いたします。

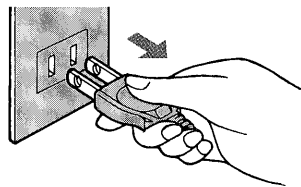
### ■ 消耗、劣化しやすい部品

項目	内容
使用時間により交換が必要な部品	点火プラグ・フレームロッド・赤熱筒・各種パッキン・Oリング
環境により劣化しやすい部品	制御基板・燃焼用送風機・対流用送風機・放熱筒
不良灯油を使用されて劣化しやすい部品	電磁ポンプ・気化筒・油タンク・バーナ

## 保管(長期間使用しない場合)

- 長期間使用しないとき(シーズン終了時)は、次の要領でお手入れしてください。

### 1 電源プラグをコンセントから抜く



### 3 油タンクの灯油を全部抜き取る

- 中に水やごみが残ったままにしておきますと、油タンクのさび・穴あきの原因になります。

### 2 ストープ外装、給気フィルタ、天板側面の掃除をする

### 4 箱に入れ保管する

- 保管するときは、湿気やほこりの少ないところに保管してください。
- 傾けたり、横倒しの状態では保管しないでください。

## 仕様

形式の呼び	KBR-173	
種類	回転霧化式、強制通気形、強制対流形	
点火方式	高電圧放電式	
使用燃料	灯油(JIS1号灯油)	
燃料消費量	最大	「強」1.82 L/h
	最小	「弱」0.57 L/h
発熱量	最大	「強」62,790kJ/h(15,000kcal/h)
	最小	「弱」19,670 kJ/h( 4,700kcal/h)
暖房出力	最大	「強」62,790kJ/h(15,000kcal/h)
	最小	「弱」19,670 kJ/h( 4,700kcal/h)
油タンク容量	18 L	
燃焼継続時間	「強」	8.2時間
	「弱」	26時間
外形寸法	高さ720mm 幅516mm 奥行542mm (置台を含む)	
質量	25kg	
電源電圧及び周波数	100V 50/60Hz	
定格消費電力	点火時	52/54W
	燃焼時	42/42W 最大 52/54W
電流ヒューズ	筒形20mm 3A	
安全装置	対震自動消火装置、停電安全装置、燃焼制御装置 不完全燃焼防止装置、点火安全装置、過熱防止装置	
その他の装置	逆火検出装置、油切れ検知装置	
付属品	置台(1)、スポイト(1)	